

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 133 号	2012年8月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—7月29日（日）「親子自然観察隊」沢登り前準備を行いました。
西原・関根・落合・寺本各会員 二俣滝付近で関根会員が蜂に遭遇 刺されました。

—7月30日（月）同蜂の巣付近の巣除去と整備をしました。西原・原田会員

—8月4日（土）①「親子自然観察隊」高学年は須賀河内川の魚観察と沢登り
ジュニアはビオトープ及び須賀河内川の魚捕獲調査

②「フジときららネット子どもエコクラブ活動講師」
ビオトープの生態系の講話・滝壺での遊泳・ため池でのエコアップ
後エコアップの意義について講話

③厚東中学校生徒会運動部4名が田んぼのイナゴ捕りと川の生き物調査

※参加者は ①親子自然観察隊 会員13名 山大学生工学部応援4名（含むインドネシア女子留学生）農学部1名 観察隊19名/正隊員4名・シニア2名・ジュニア5名・父母8名）

②フジときららネット子どもエコクラブ スタッフ含め29名 講師当会より3名

③厚東中学校ボランティア対応2名

会員の皆様大変極暑の中お疲れさまでした。

—8月18日（土）大変暑い中、17名の多くの参加を得て多くの作業をしていただきましたが、何しろ暑く大変ご苦勞をおかけしました。

駐車場の草刈りと田んぼのイナゴ捕りと猪の電柵取付準備が完了しました。

—8月19日（日）地域の会員にて 猪防禦の電気柵の完了をえました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

◎行 事

—9月02日（日）維持活動（エコアップ、草刈り、駐車場草刈り）

—9月15日（土）親子自然観察隊（秋の昆虫）

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声 (寺本 明広 記)

会報では初めましてになります。4月から活動に参加し始めました山口大学農学部の本です。よろしくお願いします。自己紹介は簡単にしまして・・・

さて、8月4日の親子観察会の沢登りに参加してきました。恐る恐る川の中を進む様子、滝壺に潜る好奇心、捕まえた魚の大きさで競争など、参加者皆さんの非日常的な体験をたのしむ様子が印象的でした。

僕の活動に取り組むモットーは「第一に楽しむこと」。これは簡単に達成されました。参加者の方々がみんなパワフルで、毎回参加するたびに刺激を受けています。ただ、活動の様子を遠巻きに見ているだけでなく、活動が小さなことからでもより良くなるよう貢献できればいいですね。今回も一応、沢登り途中に近くで魚や虫の名前がわからない様子だと知っている範囲で名前を教えることができました。それが知識の押しつけになってなければいいですが、役割を見つけてひとつひとつこなしていけたらと思います。それに加えてですが、来年度からどこで住むのかが未定なので、悔いの残らないよう山口にいる間でできる最大限のことをしてみたいという思いがありまして。そんな思いで取り組めば自分の新たな可能性が見えてくるかな？ビオトープの活動に参加するのは、誰かのためでなく、結局自分が成長していくためなのかな？なんて考える今日この頃。まだまだ未熟者ですが、よろしくお願いします。

5. 親子自然観察隊 (川の水棲動物)

台風10号もそれ、晴天、風も穏やかで、気温も川遊びには絶好の温度にまで上昇し、見守る親たちには少々暑かったものの、隊員たちにとっては最高の川遊びとなったようです。

～高学年編 (関根 雅彦 記)

子供たち9人とスタッフ+保護者約10名は、須賀河内川を遡行しながら魚の観察を行いました。ビオトープ周辺で活動するジュニア隊員を邪魔しないよう、東屋の横から川に入ります。第三土曜日に実施していたころは、もう涼しくなっていて、水中で寒く感じることも多かったのですが、今日は冷たい水が心地いい。浅瀬ではヨシノボリ、瀬(とろ)ではカワムツ、ドンコ、ヌマエビ、スジエビなどを捕りながら、どんどん登っていきます。流量が例年より多く、深い滝壺のある父滝やそれに続く母滝では、豪快な滝登りを楽しみました。母滝の上では頭上の木の葉にシュレーゲルアオガエルを発見。ゴール近くの溪流区間では、ヤンマかサナエか、大型のトンボが飛び回っており、ヤゴも捕れました。魚は圧倒的にカワムツが多く、シマドジョウやオイカワがまったく見られなかったのが少し残念でした。

～ジュニア隊員編 (管 哲郎 記)

川遊びには参加せず、川の水棲動物採集する隊員はジュニア隊員3名ほどでしたが、会員の引率により、親と一緒に川魚を釣ったり、網ですくったりと、十分に楽しみました。

メダカ、スジエビ、ヌマエビ、ドンコ、ヨシノボリ、カワムツ、オイカワのほかムギツクやオヤニラミも捕れ、数は減ったものの、思った以上に魚種豊かな須賀河内川だと思います。魚類以外にも川に棲むトンボのヤゴ(オオヤマトンボ、コヤマトンボ、コシボソヤンマ、ギンヤンマなど)も採取され、安心いたしました。

11:30 全員そろって事故もなく東屋に集まり、今日の成果をまとめた後、解散いたしました。2時間ほどの川遊びでしたが、あっという間に時間が過ぎたように感じました。お世話くださった会員の皆様、ご苦労様でした。

厚東中学校の生徒によるイナゴ駆除 8月4日(土) (管 哲郎 記)

親子自然観察隊と同じ日に、厚東中学校の生徒たちによる水田内のイナゴの駆除を行いました。30度を超す暑さの中、代表の4人の生徒たちは、汗を流しながらも頑張って、採集箱4箱ほどのイナゴを駆除していただきました。

おかげで、観察隊員の植えたお米が秋には立派に育ってくれるでしょう、厚東中学校の生徒の皆さん、本当にありがとうございました！



イナゴのすくい取りをする生徒たち



こどもエコクラブの皆さん

第4回「フジときららネットのこどもエコクラブ」 8月4日(土)

”ビオトープで遊んじゃおう！” (管 哲郎 記)

親子自然観察隊と同じ日に、今年も「フジときららネットのこどもクラブ」による観察会、採集会がビオトープ内で行われました。日程の都合によりビオトープの観察会と重なりましたので、やむを得ず会員を2組に分け担当者を配置しました。午前中は田村副会長、前田さん、中本さん、それに管の4名でお世話いただきましたが、午後よりは原田事務局長やその他の会員と山大生も加わっていただき、昼食に出された「冷やしソーメンとオムスビ」をごちそうになり、午後の部を済ませ午後3時に無事終了しました。

スポンサーの「フジグラン本部(愛媛県松山市)」より担当者お二人も見学に見え、暑い中一緒になって遊びに参加され、場所と行事に好感を持ち安心して帰って行かれました。

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（ 管 哲郎 記）

（51）アオイトトンボ（アオイトトンボ科・アオイトトンボ属） *Lestes sponsa*

このトンボは寒冷地を好むトンボで、北海道や東北地方では普通に見られるようですが、東海地方以西から四国、九州では産地はかなり限定されるようです。山口県でもやはり棲息する場所が限定されます。

イトトンボの中でも中くらいの大きさで、金緑色の光沢のある体を持ち、成熟すると胸の部分が白く粉をふいたようになるのが特徴です。梅雨のころに羽化が始まりますが、しばらくの間は薄暗い林の中に身をひそめ、夏から秋にかけ池の周りや林縁部に現れ活発に交尾や連結産卵を行います。連結産卵は集団で行うことがよく見られます。

この種も植物の茎の中に卵を埋め込みますが、やわらかな植物組織以外でも竹の葉や樹木の枝にも産みつけます。また、オス、メスともに水中に完全にもぐり産卵する光景も見られます。産みつけられた卵は植物組織の中で冬を過ごし、翌春にふ化します。



アオイトトンボ ♂



アオイトトンボ ♀



アオイトトンボ ♂

← 集団連結産卵

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

（1）毎活動日は暑い中参加者が減少していくことも考えております。活動の内、作業は昨年にして雑草の草刈や繁茂の水草等のエコアップ作業がまして、会員皆様の参加を呼び掛けています。しかしながら、毎回の活動日に昨年以上の参加と山大学生さんたちの応援活動もあり、ビオトープの維持管理を行うことが出来ております。感謝の極みです。

（2）駐車場の刈った草は23日（木）消防署に連絡し処分します。

8. 編集後記

先日、8月18日に行われた「第12回全国中学校総合文化祭」栃木大会に行って来ました。参加された中学校の皆様は、大変忙しい夏休みの練習を乗り越えて来たんだなと思います。その中でも、山口県代表の厚東中学校の演奏の素晴らしさと完成度には感動です。

これまで、ビオトープでの田植え、稲刈りや餅つきで見かけた顔もありました、みなさん立派に成長されたなどの思いと、ビオトープ活動の長さを感じました。

（ 若林 正治 記 ）